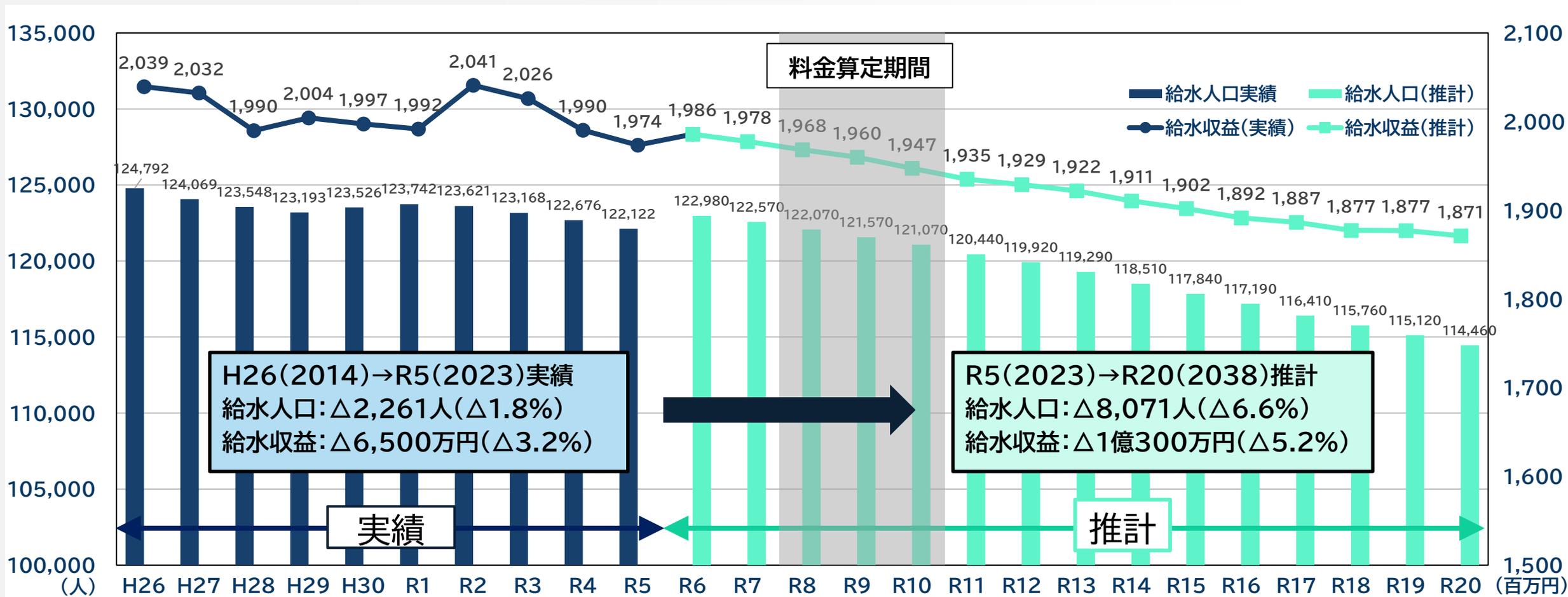
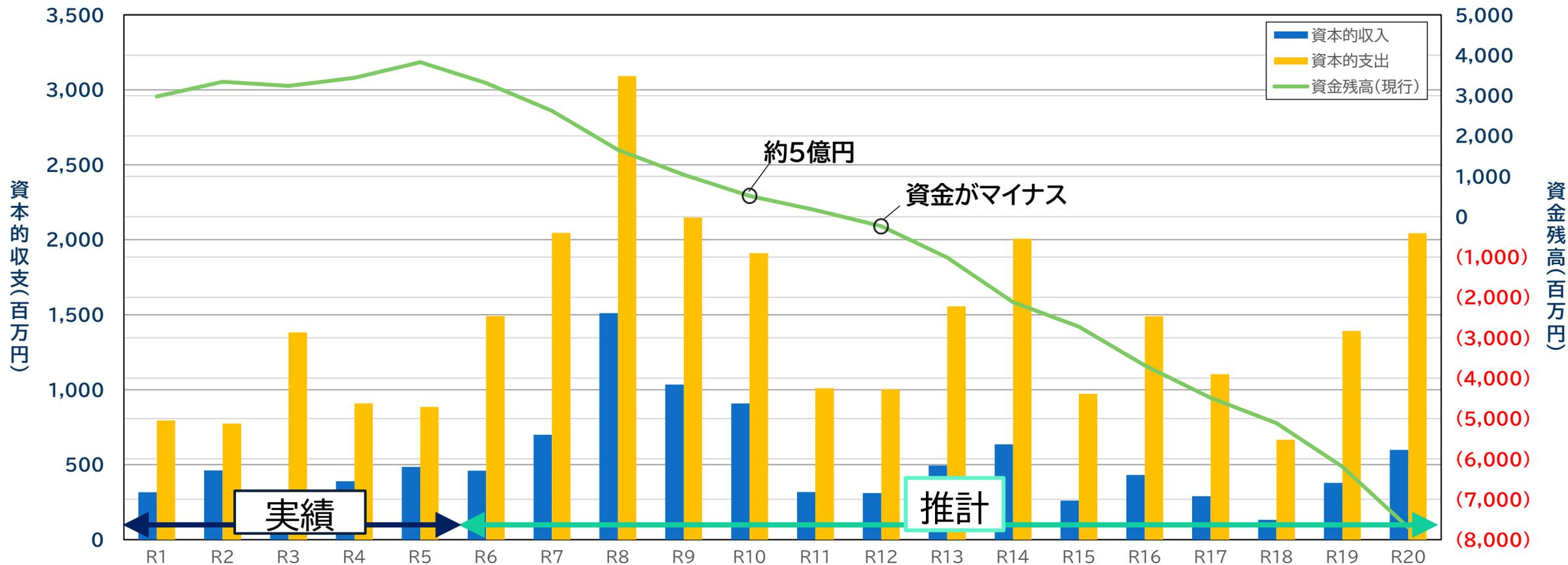


給水人口と給水収益の見通し



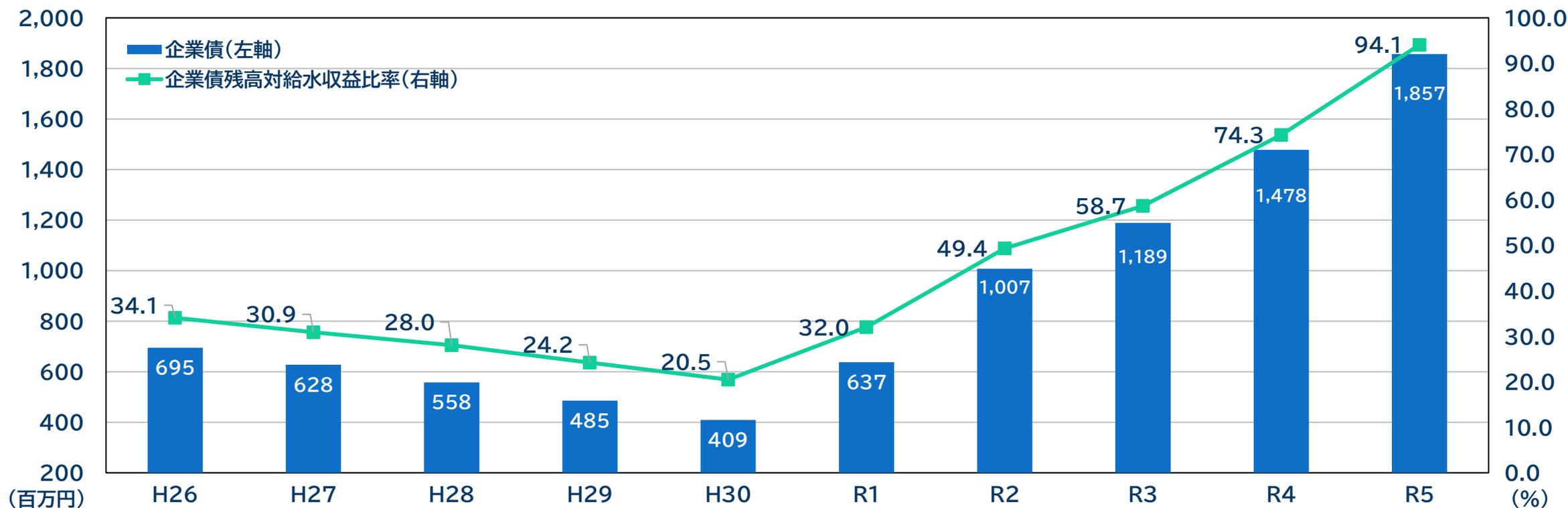
- ・給水人口や使用水量の減少に伴い、給水収益も減少する見通しです。
- ・今後もこの傾向は続く見通しです。

資本的収支、資金残高の見通し



・現行料金での財政計画で、算定期間(R8年度からR10年度)の企業債比率を50%、R11年度以降は一律35%とした場合、R10年度に資金残高が約5億円となり、R12年度にマイナスになります。

企業債残高の推移



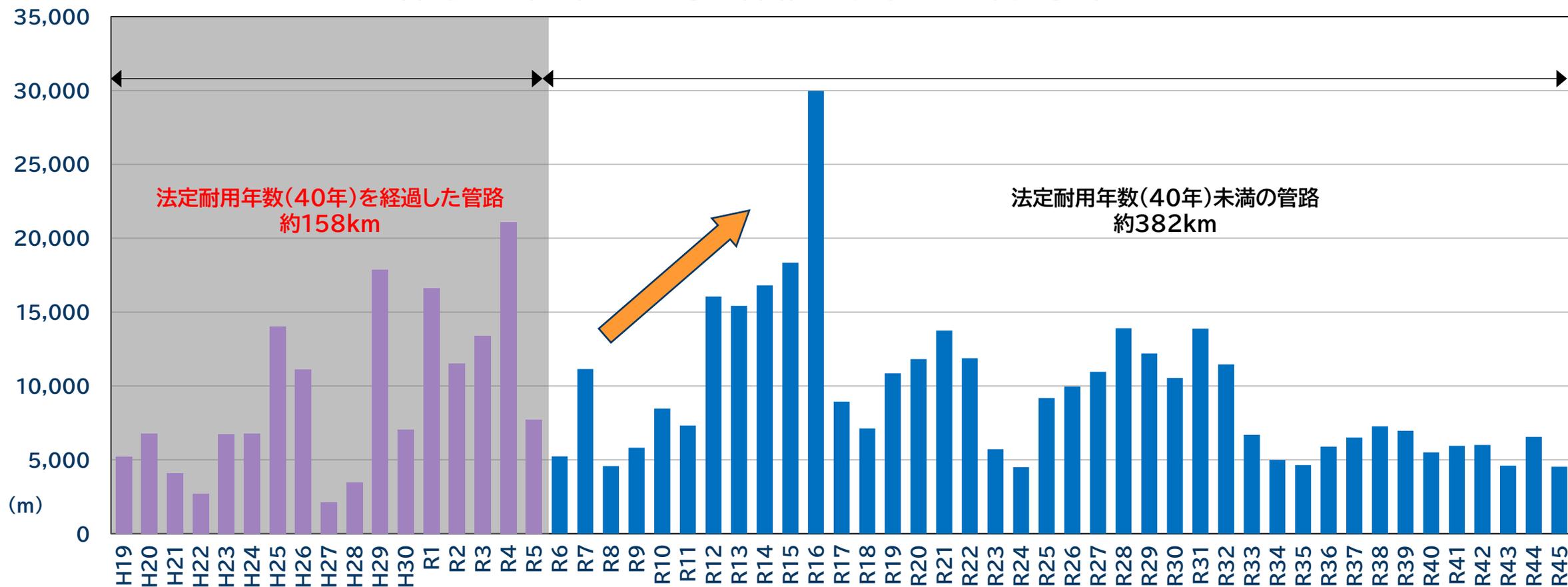
・水道施設を更新・耐震化する工事を行うため、令和元年度から企業債の借入れを再開したため、企業債残高が増加しています。

※企業債残高対給水収益比率とは

1年あたりの給水収益の額に対する企業債残高の割合です。例えばこの値が100%の場合、1年間の給水収益と企業債の残高が同じ(=1年間の給水収益で企業債を返済できる)ことを表します。

更新時期を迎える水道管の増加

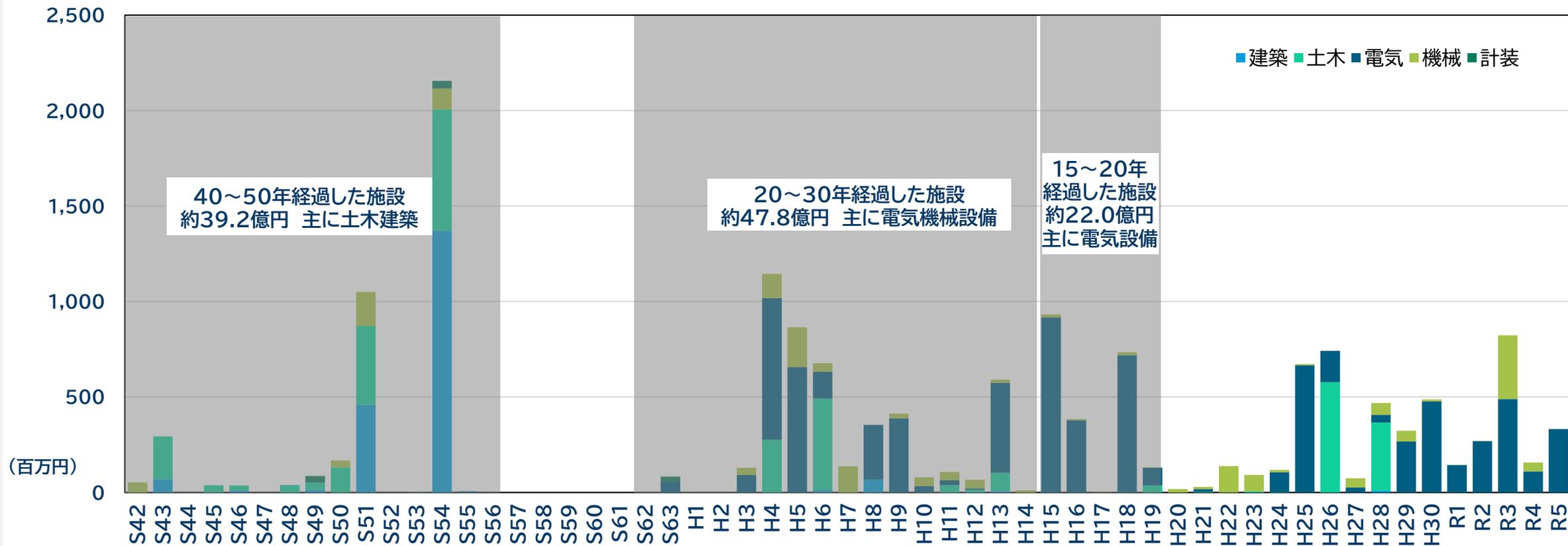
布設後40年が経過した水道管路の延長(2023年度時点)



- R5年度時点で布設後40年(法定耐用年数)を経過している水道管は約158kmあります。
- R6～R16の10年間で昭和59年以降に布設した水道管が一斉に法定耐用年数を迎えます。

更新時期を迎える水道施設の増加

耐用年数を経過した浄水場施設の工事費(2023年度時点)



40~50年経過した施設
約39.2億円 主に土木建築

20~30年経過した施設
約47.8億円 主に電気機械設備

15~20年
経過した施設
約22.0億円
主に電気設備

- ・今後10~15年で、法定耐用年数を超える設備が増えていきます。その大部分が電気機械設備です。
- ・電気機械設備の法定耐用年数は10~20年ですが、今後は更新時期を迎える設備が多くなっていきます。

水道管路の耐震化、浄水場関連設備の更新

○管路の更新

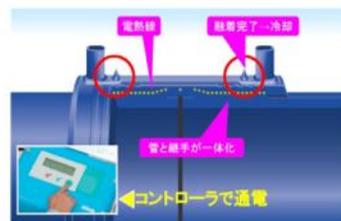


耐震化率	我孫子市	全国平均	県平均
基幹管路	46%	42%	62%
浄水施設	0%	43%	42%
配水池	100%	56%	63%

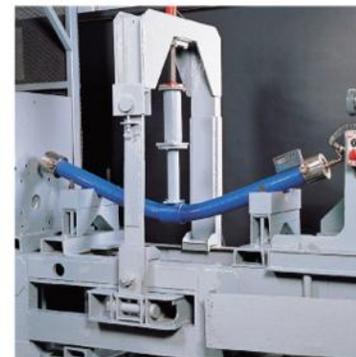
令和4年度水道カルテより作成



老朽化により破損した塩化ビニル管



画像提供: 配水用ポリエチレンハイブリッド協会

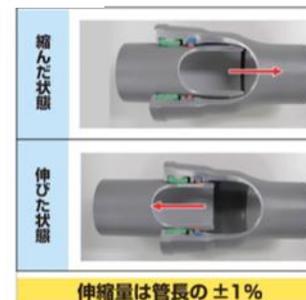


画像提供: 配水用ポリエチレンハイブリッド協会

耐震性のある配水用ポリエチレン管



老朽化により腐食した鋳鉄管



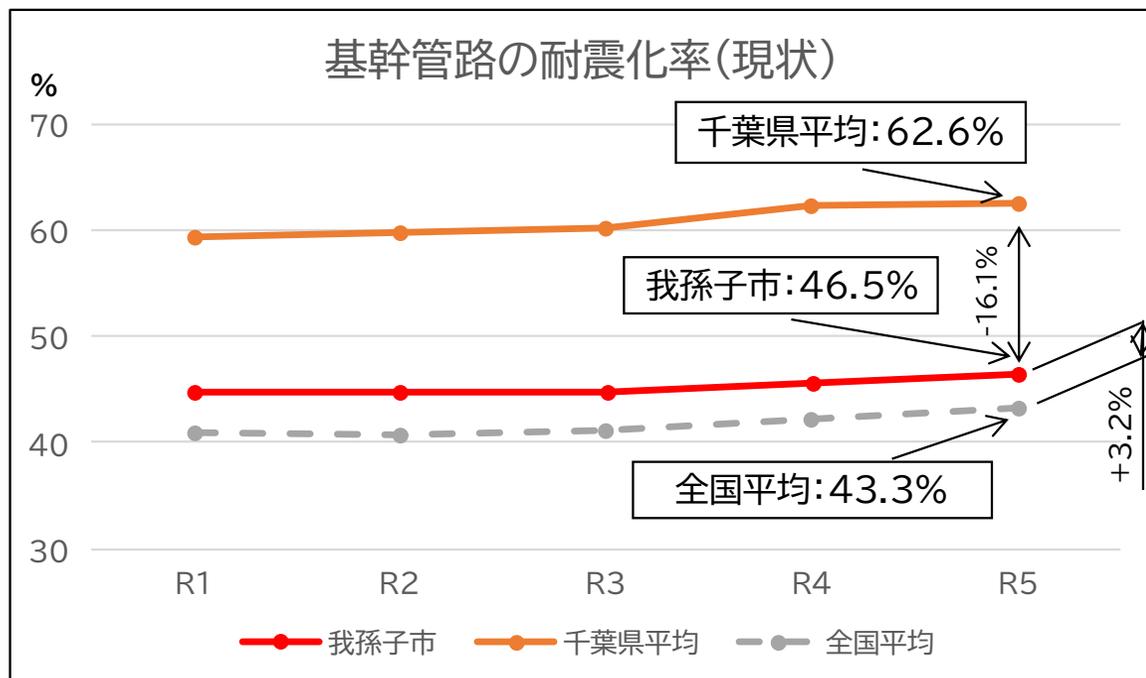
画像提供: (一社)日本ダクタイル鉄管協会

画像提供: (一社)日本ダクタイル鉄管協会

耐震性のあるダクタイル鋳鉄管



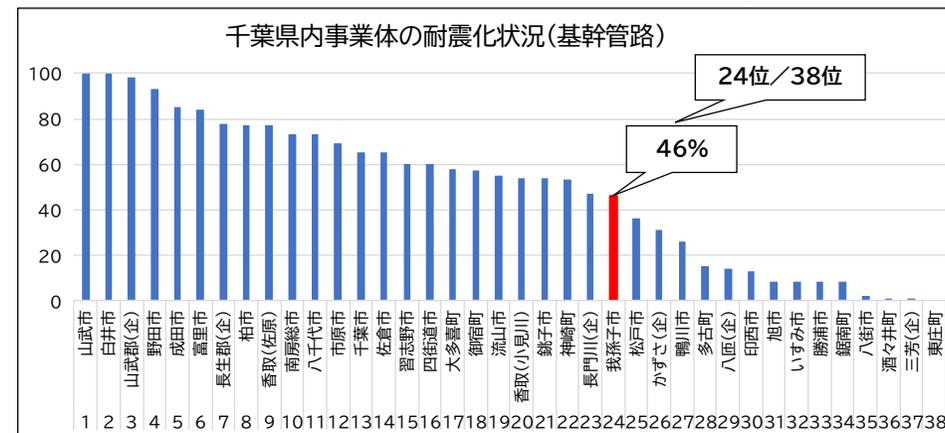
水道管の耐震化率



	R1	R2	R3	R4	R5	(%)
我孫子市	44.8	44.8	44.8	45.7	46.5	
千葉県平均	59.3	59.8	60.3	62.3	62.6	
全国平均	40.9	40.7	41.2	42.3	43.3	

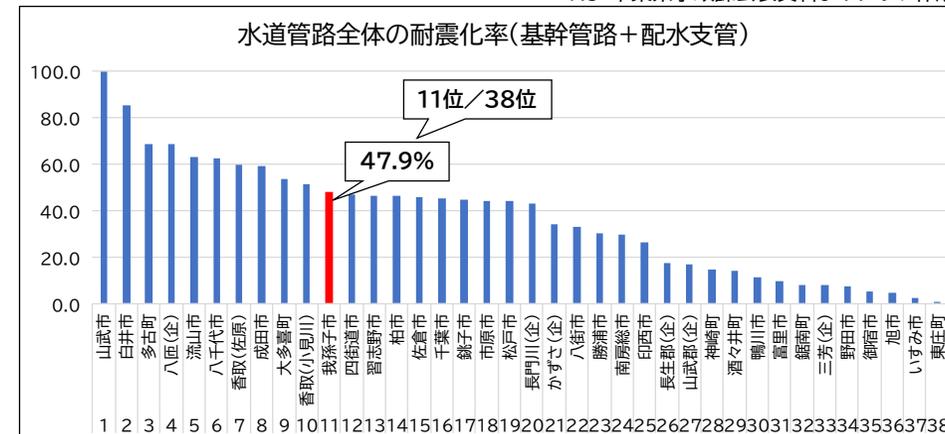
※基幹管路の耐震化率は、全国平均をやや上回り、千葉県平均を大幅に下回っている。

R4:千葉県の水道カルテよりグラフ作成



※令和4年度末時点の基幹管路の耐震化率は、県内38事業者のうち24番目と低い。令和4年度から基幹管路の更新も配水支管と並行して実施しており、耐震化率の向上に努める。

R5:千葉県水政課公表資料よりグラフ作成



※令和5年度末時点の基幹管路と配水支管を合わせた水道管路全体の耐震化率は、県内38事業者のうち11番目となっている。我孫子市の特徴として老朽化による配水支管の自然漏水が多く、市民の皆様のご日常生活に支障をきたしていたことから、配水支管の面的な更新に注力していたため、水道管路全体の耐震化率は比較的高い。

老朽化による水道管路の漏水事故の増加



塩化ビニル管の破損による漏水(令和7年2月 若松)



鋼管の破損による漏水(令和6年1月 寿)



老朽化により破損した塩化ビニル管



老朽化により腐食した鑄鉄管



塩化ビニル管の破損による漏水(令和6年1月 並木)

- ◆老朽化した水道管が破損して漏水事故が頻発しています。
- ◆修繕により断水が発生し、市民の皆様のご日常生活に大きな影響を与えています。
- ◆漏水により出水不良や水質汚染の要因、また道路陥没や冬季の路面凍結による交通事故などの二次災害の原因となります。